聖枝祭徹夜祷

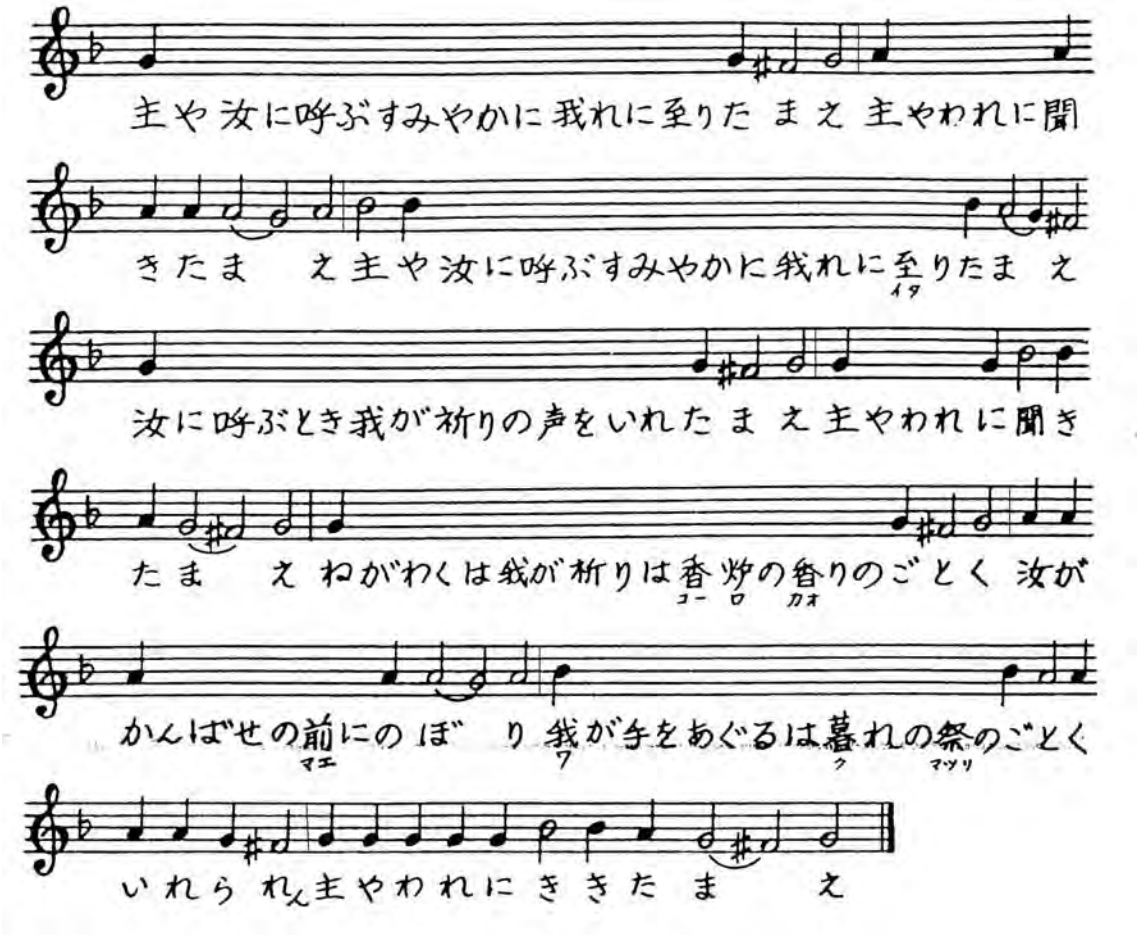
晩 課

首唱聖詠、大連祷

カフィズマ（悪人の謀、小連祷）

祭－１

「主よ、爾に籲ぶ」第六調。



句、我が霊を獄より引き出して、我に爾の名を讃栄せしめ給へ。

今日聖神の恩寵は我等を聚めたり、我等皆爾の十字架を執りて言ふ、主の名に因りて來る者は崇め讃めらる、至高きに「オサンナ」。

句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

第 129 聖詠／130 詩編

＜繰り返し　省略＞

句、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が声を聴き給へ。

神父の言及び同永在の子、天を寶座と爲し、地を足の凳と爲す主は己を卑くして、今日言なき　小驢　に乘りて、ワィファニヤに來れり。故にエウレイの諸子は手に枝を執り、聲を以て讃美せり、至高きに「オサンナ」、來るイズライリの王は崇め讃めらる。

句、願はくは爾の耳は我が祷の声を聴き納れん。

<繰り返し　略>

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん為なり。

我等も異邦人よりする教會、新なるイズライリたる者は皆來りて、預言者ザハリヤと共に呼ばん、シオンの女よ、大に歡べ、イエルサリムの女よ、傅へよ、蓋視よ、爾の王は爾に臨む、温柔にして救を施す主、重任を負ふ者の子なる、　小驢　に乘る者なり。諸子の如く祝ひ、手に枝を執りて讃美せよ、至高きに「オサンナ」、來るイズライリの王は崇め讃めらる。

句、主を望み、我が霊主を望み、彼の言を恃む。

<繰り返し　略>

句、我が霊主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

仁慈なる主よ、爾は己の尊き復活を我等の爲に預象して、呼吸なき友ラザリ、四日目の臭き死者を墓より起し給へり。救世主よ、爾は又　小驢　に乘り、車に於けるが如く乘せられて、異邦民を服從せしむるを像り給へり。故にハリストスよ、至愛なるイズライリは逾越節の前六日に、爾が聖なる城に入るを見る哺乳者と無垢なる嬰兒との口より爾に讃美を奉る。

第 116 聖詠／117 詩編

句、願はくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其の悉くの不法より贖はん。

＜繰り返し　略＞

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

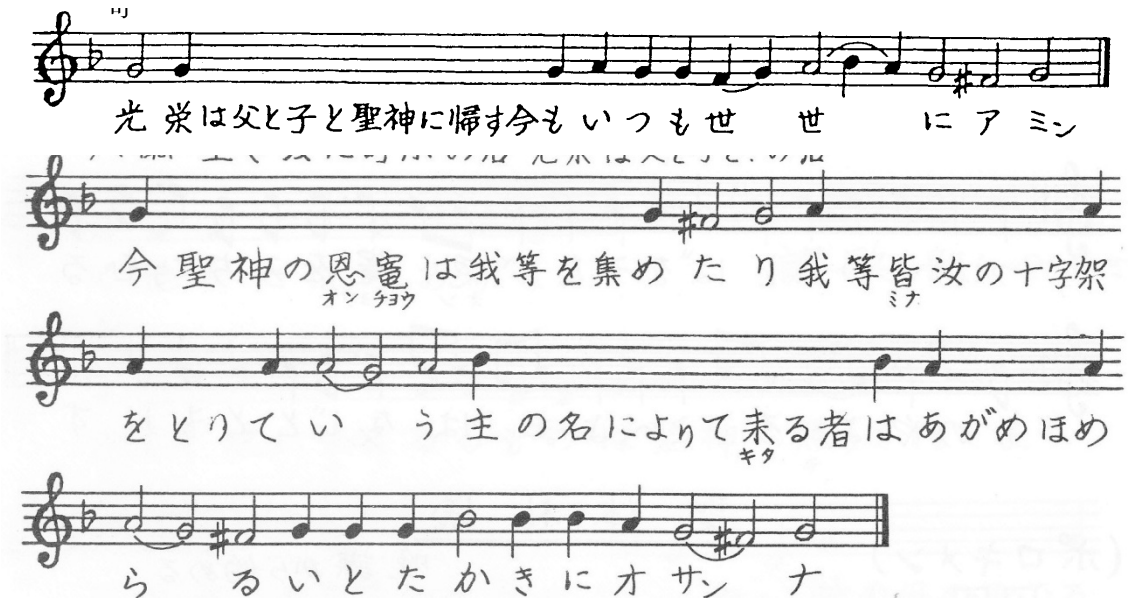
逾越節の前六日、イイススワィファニヤに來れり、其門徒彼に就きて曰へり、主よ、我等が何處に爾の爲に逾越節筵を備へんことを欲するか。彼は之を遣して曰へり、城に往け、水を盛れる瓶を攜ふる人に遇はん、之に随ひて家の主に語げよ、師言ふ、我門徒と偕に爾の家に逾越前筵を行はん。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の真實は永く存す。

＜繰り返し　略＞

【生神女讃詞】６調歌う。

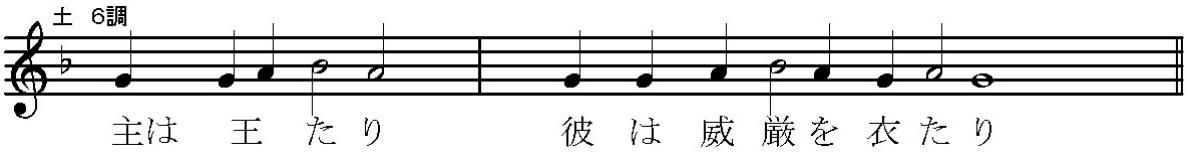
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。今日聖神の恩寵は我等を聚めたり、我等皆爾の十字架を執りて言ふ、主の名に因りて來る者は崇め讃めらる、至高きに「オサンナ」。



→通常部分（P7/8「聖にして福たる」へ戻る

【スボタのポロキメン】（６調）第９２聖詠１―５

主は王たり、彼は威厳を衣たり、（句）主は能力を衣、又之を帯にせり、（句）故に世界は堅固にして動かざらん、（句）　主や、聖徳は爾の家に属して永途に至らん、



（ポロキメンの後）

祭－２　パレミヤ（旧約聖書の読み）

【創世記の讀。第四十九章】

イアコフ其諸子を召して彼等に謂へり、來り集まれ、我爾等が後の日に遇はんとする事を爾等に告げん、イアコフの諸子よ、集まりて我に聽け、爾等の父イズライリに聽けよ。イウダよ、爾の兄弟は爾を讃めん。爾の手は爾の敵の背に在らん、爾の父の諸子は爾に伏拜せん。イウダは若き獅なり、吾が子よ、爾は獲に飽きて歸り上る、其膝を折りて伏すこと、牡獅の如く、牝獅の若し、孰か敢て彼を起さん。權を秉る者イウダより竭きず、帥いる者其裔より竭きずして、平安を賜ふ者の來る時に迫ばん、彼來らば諸民彼に從はん。イウダは其驢馬を葡萄の樹に繫ぎ、其牝驢馬の子を葡萄の蔓に繫ぐ、酒にて其衣を澣ひ、葡萄の血にて其服を滌ふ、其目は酒に因りて澤あり、其歯は乳に因りて白し。

【ソフォニヤの預言書の讀。第三章】

主是くの如く言ふ、シオンの女よ、歡びて呼べ、イズライリよ、祝へ、イェルサリムの女よ、心を全くして喜び樂しめ。主は爾に對する審斷を息め、爾の敵を逐へり、

主イズライリの王は爾の中に在り、爾復禍に遇はざらん。當日イェルサリムに謂ふあらん、懼るる母れ、シオンに謂ふあらん、爾の手弱るべからず、主爾の神は爾の中に在り、彼爾を救ふに能あり、彼は爾の爲に喜びて樂しみ、其愛に因りて憐を施し、爾の爲に祝ひて呼ばん。我節筵の爲に憂ふる者を集めん、彼等は爾に屬す、耻辱は彼等に在ること重負の如し。視よ、其時我凡そ爾を苦しむる者を罰し、足蹇へたる者を救ひ、遂はれたる者を集め、彼等をして其耻辱を蒙りし全地に於て頌美を得、名を得しめん。

【ザハリヤの預言書の讀、第九章】

主是くの如く言ふ、シオンの女よ、歡びて呼べ、イェルサリムの女よ、祝ひて樂しめ、視よ、爾の王は爾に臨む、義にして救を施し、温柔にして、牝驢及び重任を負ふ者の子たる小驢に乘る者なり。其時我エフレムより車を絶ち、イエリサリムより馬を絶たん、戰の弓も絶たれん、彼は諸民に和平を告げん、彼の治むる所は海より海に及び、河より地の極に及ばん。爾に至りては、我爾の約の血の爲に、爾の俘囚を釋きて、水なき坑より出さん。望を懷く俘囚よ、爾等保障に歸れ、我今告げて云ふ、我倍して爾に報いん。蓋我己の爲にイウダを弓の如くに張り、エフレムを以て弓に滿てん、シオンよ、我爾の諸子を起して、エルリンの諸子を攻め、爾を勇士の劍と爲さん。主は彼等の上に現れて、其箭は電の如くに發せん、主神は筮を吹き、南方の大風に乘りて往かん。主サワオフは彼等を防ぎ護らん

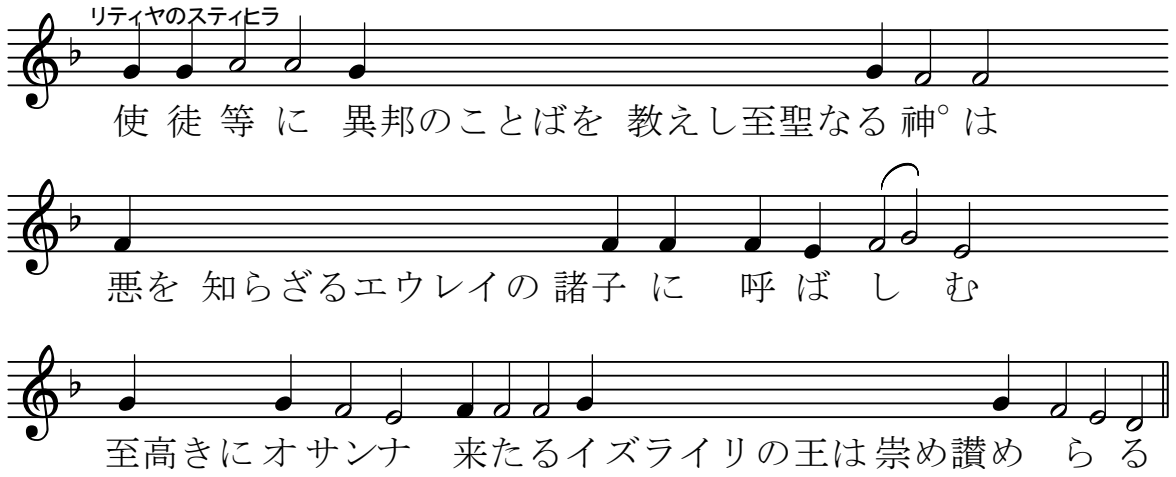
→通常部分 P10 重連祷へ戻る

（増連祷が終わったら）

祭－３　リティヤのスティヒラ

［リティヤ］に自調の讃頌、第一調。

使徒等に異方の言を言ふを教へし至聖なる神は惡を知らざるエウレイの諸子に呼ばしむ、至高きに「オサンナ」、來るイズライリの王は崇め讃めらる。』



父と同無原同永在なる子及び言は今日言なき　小驢　に乗りて、イェルサリムの城に來れり。ヘルワィム等が畏れて見るを得ざる者を諸子は讃め揚げて、梢と枝とを執りて、奥密に讃美を歌ふ、至高きに「オサンナ」、我等の全類を迷より救はん爲に來りしダワィドの子に「オサンナ」。

＜後略＞

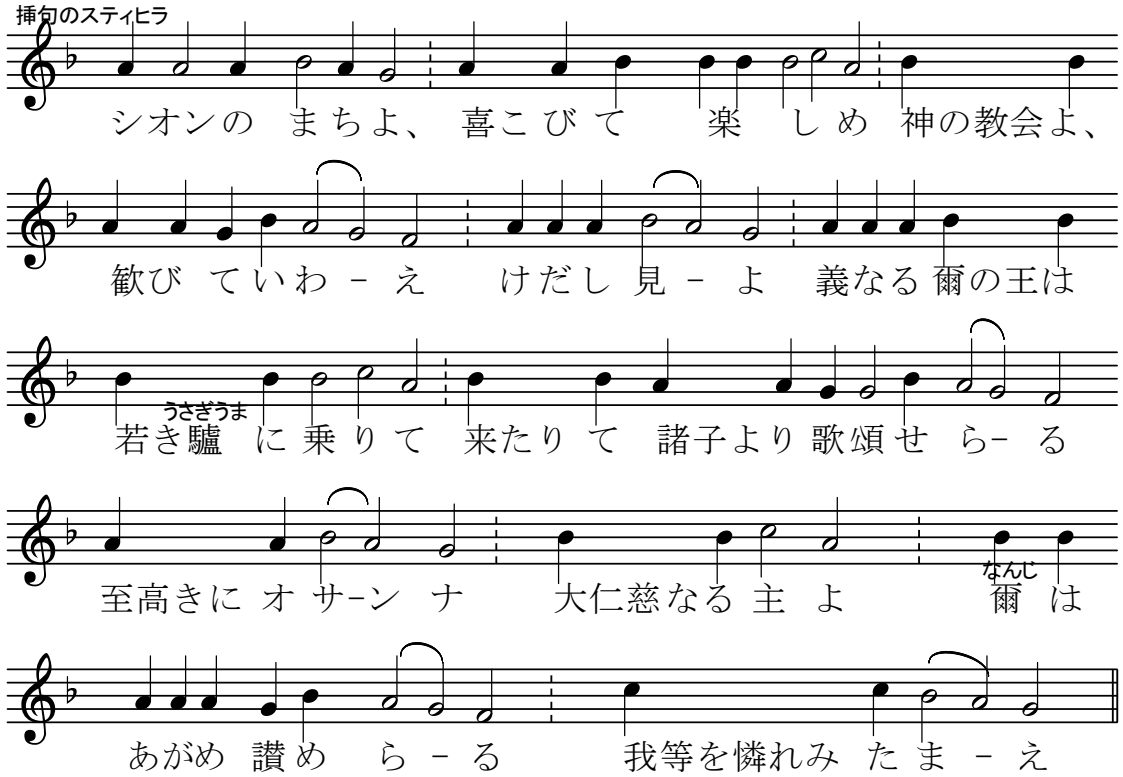
通常部分へ戻る。　P11 リティヤへ

（リティヤが終わったら）

祭−4　挿句のスティヒラ

挿句に自調の讃頌、第八調。

シオンの城よ、喜びて樂しめ、神の教會よ、歡びて祝へ、蓋視よ、義なる爾の王は小驢に乗りて、來りて諸子より歌頌せらる、至高きに「オサンナ」、大仁慈なる主よ、爾は崇め讃めらる、我等を憐み給へ。



句、爾は嬰兒と。哺乳者との口より讃美を備へたり。

今日救世主は録されしことを成就せん爲にイエルサリムの城に來れり。皆手に枝を執り、衣を彼の爲に布けり、其我等の神にして、ヘルワィム等に絶えず至高きに「オサンナ」と呼ばるる者なるを知ればなり。大仁慈なる主よ、爾は崇め讃めらる、我等を憐み給へ。

句、主我が神よ、爾の名は何ぞ全地に大なる。

ヘルワィムに乗せられ、セラフィムに歌はるる至善なる主よ、爾　小驢　に乗りしに、

ダワィドの預言に應じて、諸子は神に適ふが如く爾を歌ひ、イウデヤ人は不法に誚れり。爾が　小驢　に乗るは逆ふ異邦民の不信より信に變ぜらるるを預象せり、ハリストス、惟一の仁慈仁愛なる主よ、光榮は爾に歸す。

＜６調＞

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。

今日聖神の恩寵は我等を聚めたり、我等皆爾の十字架を執りて言ふ、主の名に因りて來る者は崇め讃めらる、至高きに「オサンナ」。

→通常部分 P13「シメオンの祝文」へ戻る

「聖三祝文」「至聖三者」「天主経」

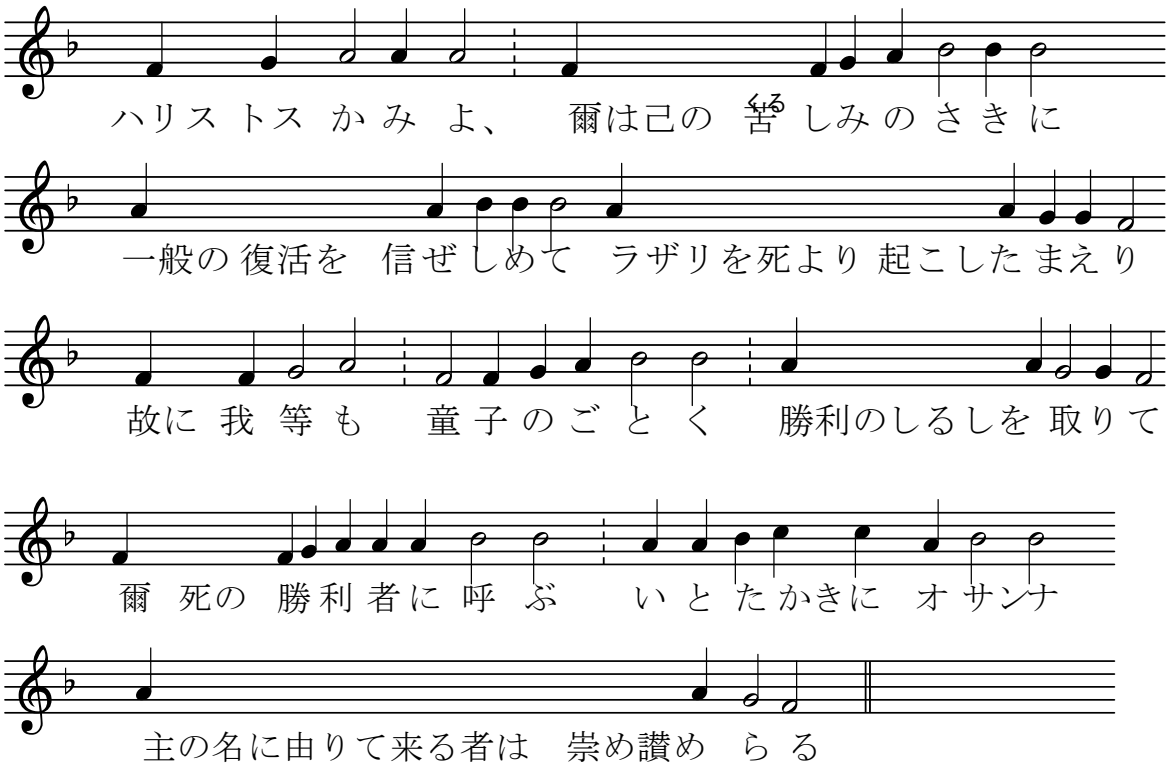
司祭　　蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神°に帰す、今も何時も世世に、

（詠）　「アミン」

（アミンに続いて）

祭−5　祭日のトロパリ

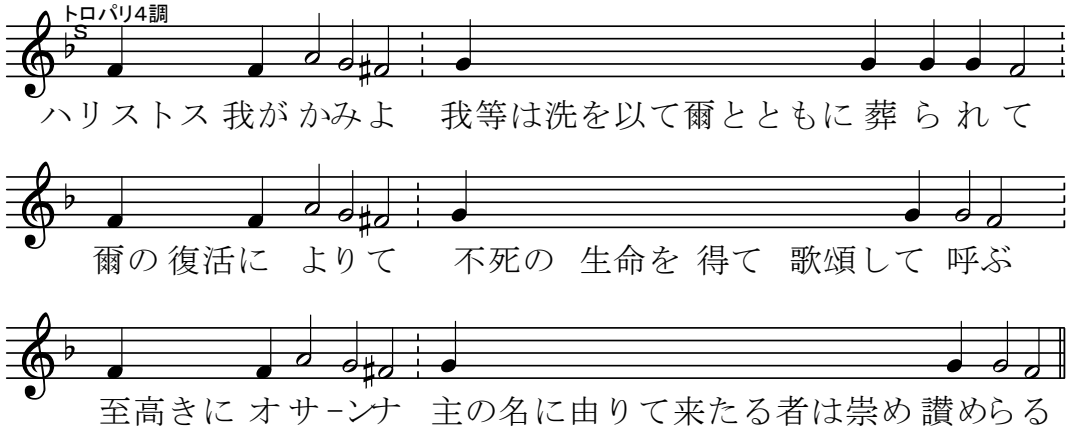
ハリストス神よ、爾は己の苦の前に一般の復活を信ぜしめて、ラザリを死より起し給へり。故に我等も童子の如く勝利の徽號を執りて、爾死の勝利者に呼ぶ、至高きに「オサンナ」。主の名に因りて來る者は崇め讃めらる。



「光栄は」に続いてトロパリ1を**繰り返す。**

「今も」に続いて**トロパリ２を１回**、第四調、

ハリストス我が神よ、我等は洗を以て爾と偕に葬られて、爾の復活に由りて不死の生命を得て、歌頌して呼ぶ、至高きに「オサンナ」、主の名に由りて來る者は崇め讃めらる。一次。



→通常部分 P14「願わくは主の名は崇めほめられ･･･・」へ戻る。

早課六段の聖詠、大連祷に続いて

祭-6　主は神なり、祭日トロパリ

「主は神なり」に三讃詞、第一調、（晩課の終わりと同じ）

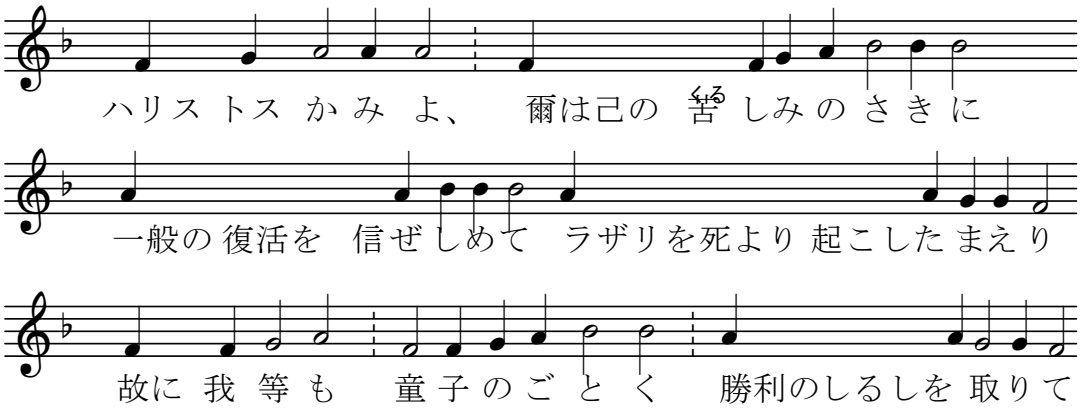
ハリストス神よ、爾は己の苦の前に一般の復活を信ぜしめて、ラザリを死より起し給へり。故に我等も童子の如く勝利の徽號を執りて、爾死の勝利者に呼ぶ、至高きに「オサンナ」。主の名に因りて來る者は崇め讃めらる。二次。

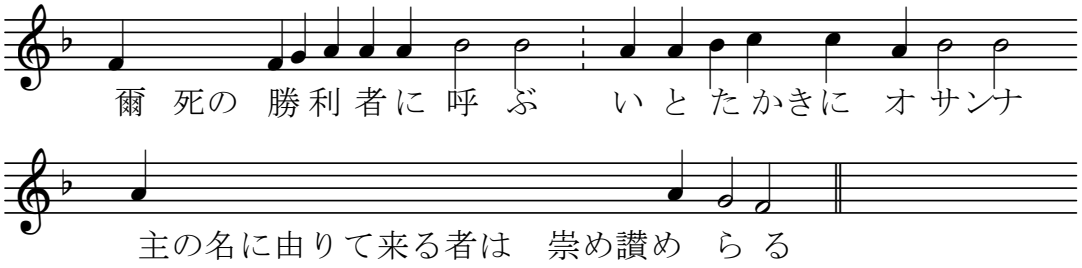
又讃詞、第四調、

ハリストス我が神よ、我等は洗を以て爾と偕に葬られて、

爾の復活に由りて不死の生命を得て、歌頌して呼ぶ、

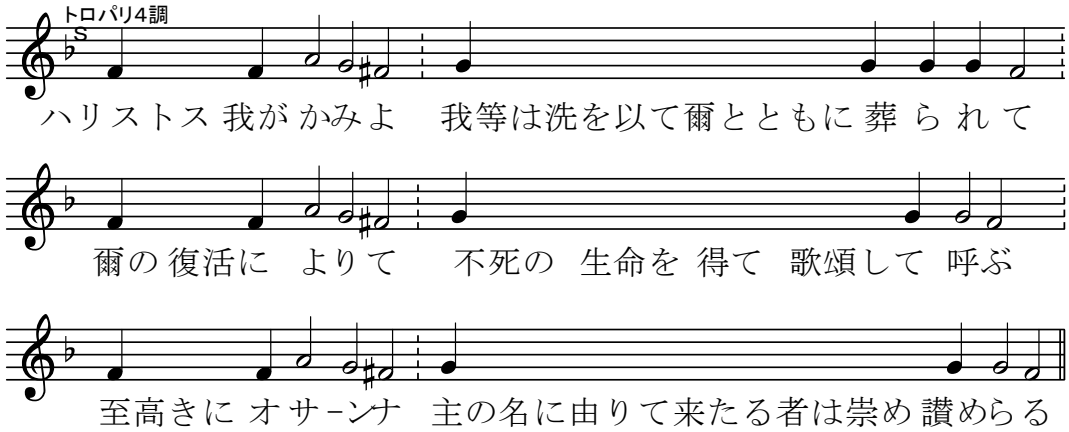
至高きに「オサンナ」、主の名に由りて來る者は崇め讃めらる。一次。





♪光栄は父と子と聖神に帰す今も何時も世々にアミン

トロパリ２



→通常部分へ戻る　P17【ポリエレイ】へ

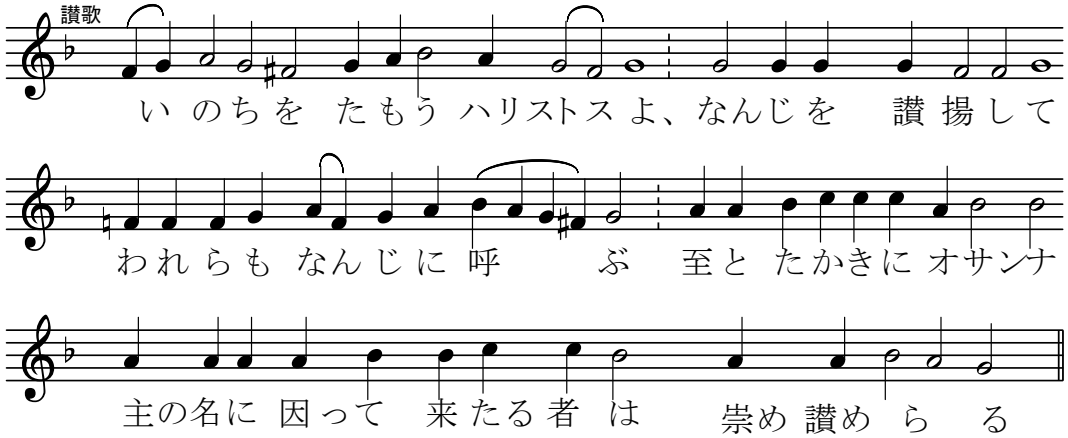
＜ポリエレイ後のセダレン省略＞

ポリエレイに続いて

祭-7

【讃歌】（讃歌はロシア系のみの伝統なので祭日経には出ていない。▽連接歌集 P342）

※炉儀が終わるまで繰り返す。3 回とは限らない。連接歌集には下記の句を挿入し、最後にアリルイヤを歌うように指示がある。



右、主我が神よ、爾の名は何ぞ全地に大なる。

左、爾の光榮は諸天に超ゆ。

右、爾は嬰児と、哺乳者との口より讃美を備へたり。

光榮、今も、「アリルイヤ」、三次。

→通常部分 P18 へ戻る　　**【小連祷】【アンティフォン】４調**

祭−8

提綱、第四調。

［提綱、第四調］爾(なんじ)は嬰兒(おさなご)と哺乳者(ちのみご)との口(くち)より讃美(さんび)を備(そな)へたり。句、主我(しゅわ)が神(かみ)よ、爾(なんじ)の名(な)は何(なん)ぞ全地(ぜんち)に大(おおい)なる。

【福音の読み】

輔祭　主に祷らん、

（詠）　主、憐れめよ

司祭　（高声）蓋我が神や、爾は聖にして聖なる者の中に居る、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

（詠）「アミン」

輔祭　凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、

（詠）　凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、

輔祭　（句）　神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ、

（詠）　凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、

輔祭　凡そ呼吸ある者は

（詠）　主を讃め揚げよ、

輔祭　我等に聖福音経を聴くを賜うを主・神に祷らん、

（詠）　主憐めよ、３次

輔祭　睿智粛みて立て、聖福音経を聴くべし、

司祭　衆人に平安、

（詠）　爾の神にも、

司祭　ルカ伝の聖福音経の読み、

（詠）主や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す、

輔祭　謹みて聴くべし

福音經はマトフェイ八十三端。

彼の時イイスス　イエルサリムに近づき、橄欖山に邇く、ワィファギヤに來りて、★

1イエルサリムに近づき、橄欖山に邇く、ワィファギヤに來りし時、イイスス★二人の門徒を遣して、2之に謂へり、爾等の前なる村に往け、直に緊ぎたる牝驢及び之と偕に在る小驢に遇はん、之を解きて、我

に牽き來れ。3若し爾等を詰る者あらば、主之を需むと言へ、然らば直に之を遣さん。4此れ皆成りしは、預言者を以て言はれし事に應ふを致す、曰く、5シオンの女に告げて云へ、視よ、爾の王は温柔にして、牝驢及び重任を負ふ者の子なる小驢に乘りて、爾に臨むと。6門徒往きてイイススの命ぜし如く行ひ、7牝驢及び小驢を牽き來りて、己の衣を其上に置き、彼其上に乘れり。8衆くの民は己の衣を途に布き、他の者は樹の枝を伐りて途に布けり。9且前に行き後に從ふ民は呼びて曰へり、ダワィドの子に「オサンナ」、主の名に因りて來る者は祝福せらる、至高きに「オサンナ」。10彼がイエルサリムに入りし時、城擧りて騒ちて曰へり、此れ誰ぞや。11民曰へり、此れイイスス、ガリレヤのナザレトの預言者なり。イイス ス神の殿に入りて、其中に貿易する者を悉く逐ひ出し、兌錢する者の案と鴿を鬻ぐ者の椅とを倒して、13彼等に謂へり、我が家は祈祷の家と稱へられんと録されたるに、爾等之を盗賊の巣窟と爲せり。14瞽者及び跛者殿に於て彼に就きたれば、彼之を醫せり。15司祭諸長と學士等とは、其行ひし奇蹟を見、又童子等が殿に呼びて、ダワィドの子に「オサンナ」と云ふを見て、憤りて16彼に謂へり、爾此の輩の言ふ所を聞くか。イイスス彼等に謂ふ、然り、爾等未だ、爾は、嬰兒と哺乳兒との口より讃美を備へたりと、云へるを讀まざりしか。17遂に彼等を離れて、城の外に出で、ワィファニヤに至りて、彼處に宿れり。

祭−9　福音後のスティヒラ　（交替で祝福を受けに行く）

「ハリストスの復活を見て」を歌はずして直に**第五十聖詠**を誦す。

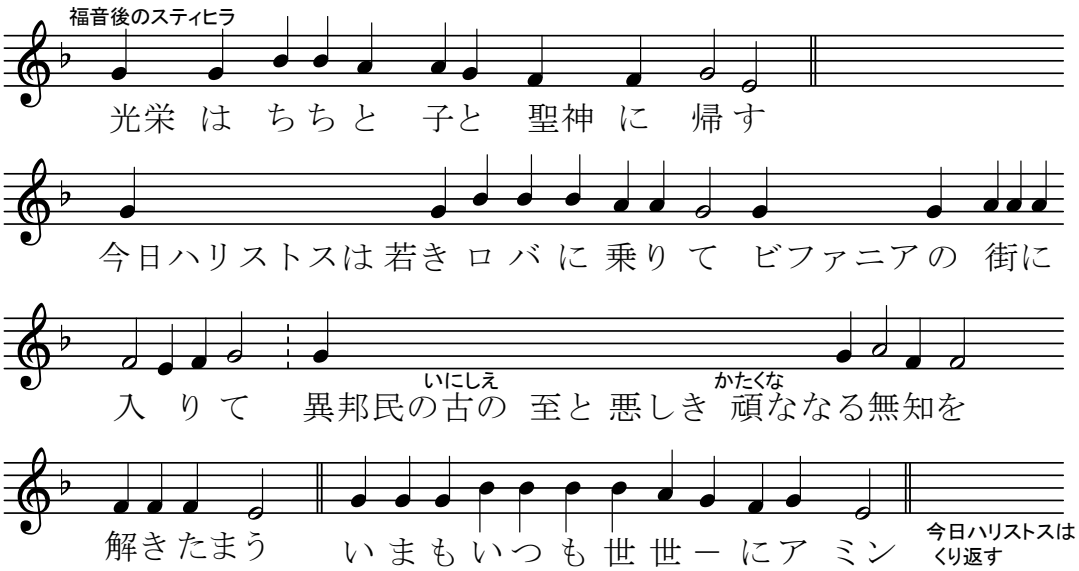
→通常部分 P18 へ戻る　【第 50 聖詠誦読】

＜枝の祝福＞司祭香爐を軌りて、枝の四周に十字形に爐儀を行ひて、之を祝福する祝文を誦す。

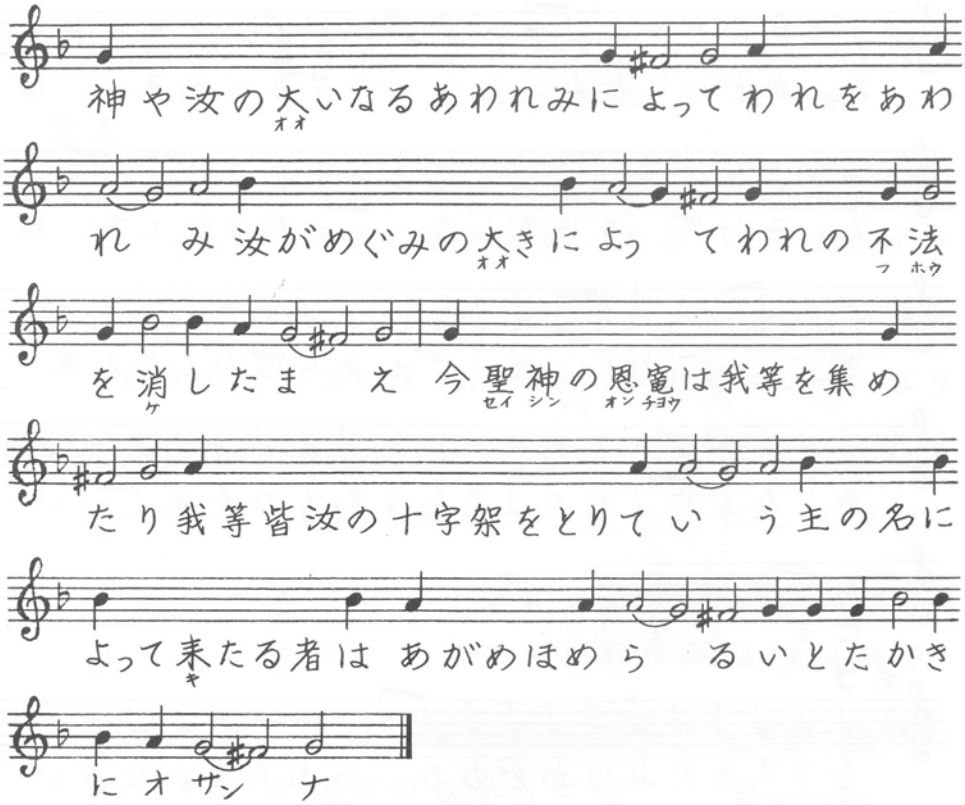
輔祭、主に禱らん。　詠隊、主憐めよ。

司祭祝文　ヘルワィムに坐する主、我等の神よ、爾は己の子、我が主イイススハリストスの能力を顯し給へり、彼が其十字架と、葬と、復活とを以て世界を救はん爲なり。彼今イェルサリムに自由なる苦の爲に來りし者を、幽暗と死の蔭とに坐する民は、復活の徽號なる樹の枝と櫻櫚の梢とを執りて、復活を示して迎へたり。主宰よ、爾親ら、我等も之に效ひて、此の祭の前日に手に樹の枝と梢とを執る者を顧みて護り給へ、彼の民と諸子とが爾に「オサンナ」を奉りし如く、我等も同じく詩賦と屬神の歌頌とを爾に奉りて、生を施す三日目の復活に至らん爲なり、ハリストスイイスス我等の主に因りてなり。爾は彼と、至聖至善にして生を施す爾の神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、「アミン」。衆が福音經に接吻する時、司祭之に枝を分予す。

50聖詠に続いて



続いて「爾の大いなる憐れみによって」



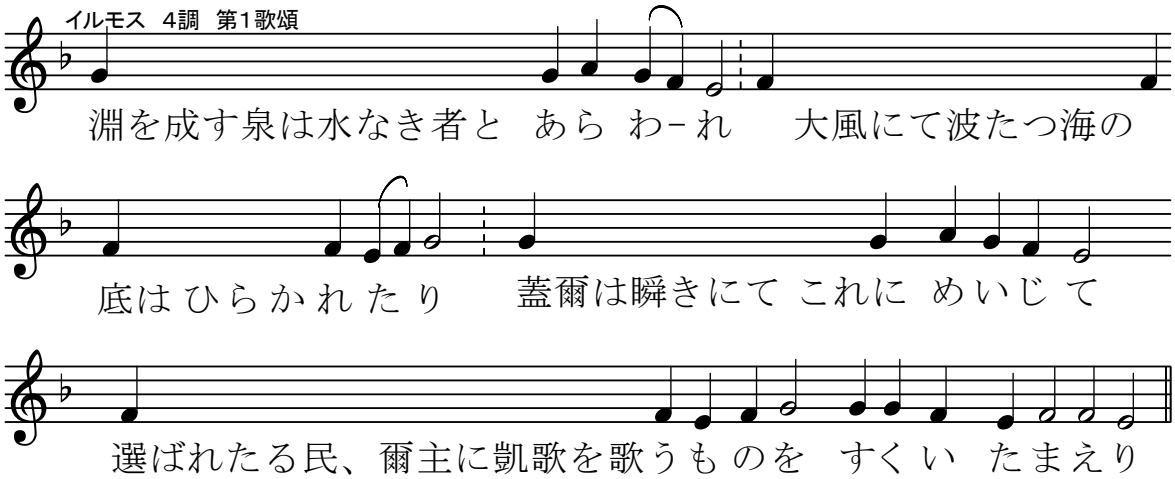
→通常部分 P20 へ戻る 【輔祭「神よ、爾の大いなる憐れみによって･･･」と「主憐れめよ」12 回】
（アミンに続けて）

祭−10　カノン

高聲の後に規程、イルモス二次、讃詞十二句に。共頌にイルモス、兩詠隊共に。コスマ師の作。**其冠詞は、「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神。**第四調。

第一歌頌

イルモス、淵を成す泉は水なき者と現れ、大風にて浪たつ海の底は開かれたり、蓋爾は瞬にて之に命じて、選ばれたる民、爾主に凱歌を歌ふ者を救ひ給へり。



「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

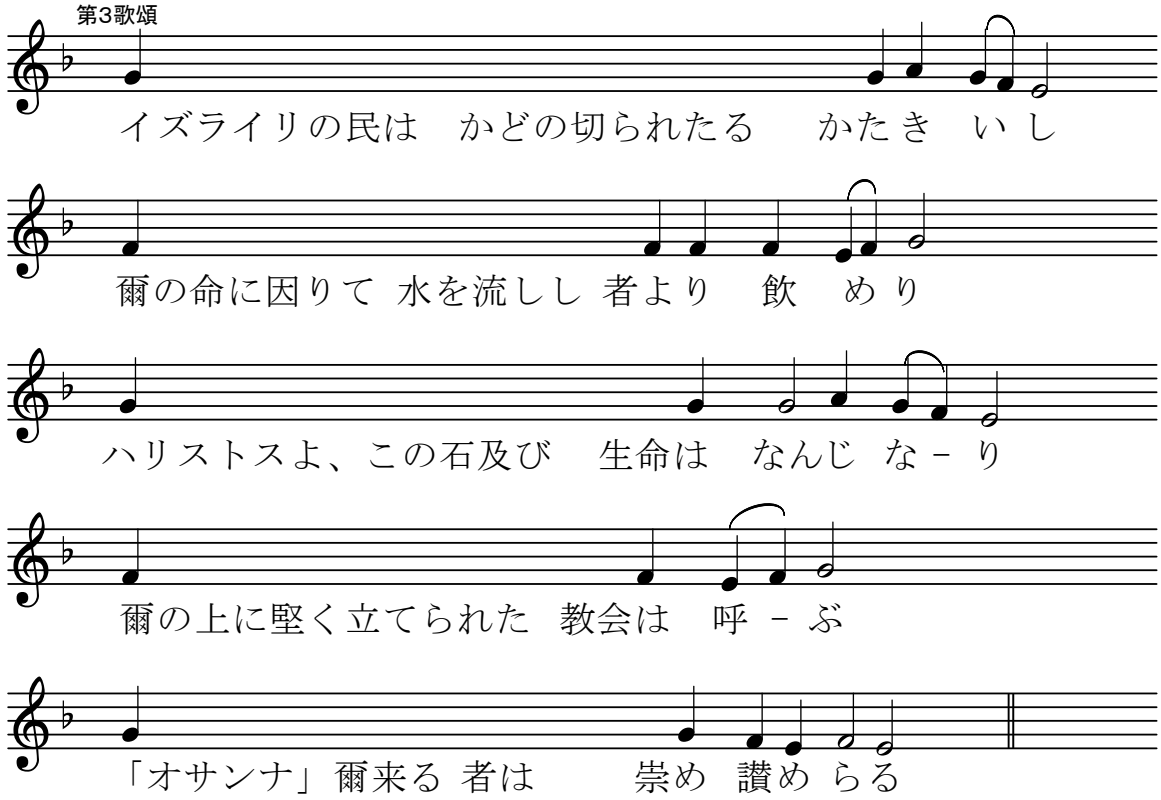
主よ、爾は無垢なる嬰兒と哺乳者との口を以て爾の諸僕の讃美を備へたり、敵を滅し、十字架の苦を以て古のアダムの墮落を贖ひ、木に縁りて彼を復活せしめて、爾に凱歌を歌はしめん爲なり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

ハリストスよ、克肖者の教會は爾シオンに居る者に讃美を奉り、イズライリは爾己の造成主の爲に喜び、山たる異邦民、逆ふ者、心の石の如き者は爾の顔の前に樂しみて、爾主に凱歌を歌ふ。

第三歌頌

イルモス、イズライリの民は稜の斫られたる堅き石、爾の命に因りて水を流しし者より飲めり。ハリストスよ、此の石及び生命は爾なり、爾の上に堅く立てられたる教會は籲ぶ、「オサンナ」、爾來る者は崇め讃めらる。



「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

ハリストスよ、地獄は爾の命に由りて戰きて、四日目の死者ラザリを死より放てり。蓋 爾は復活及び生命なり、教會は爾の上に堅められて呼ぶ、「オサンナ」、爾來る者は崇め讃めらる。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

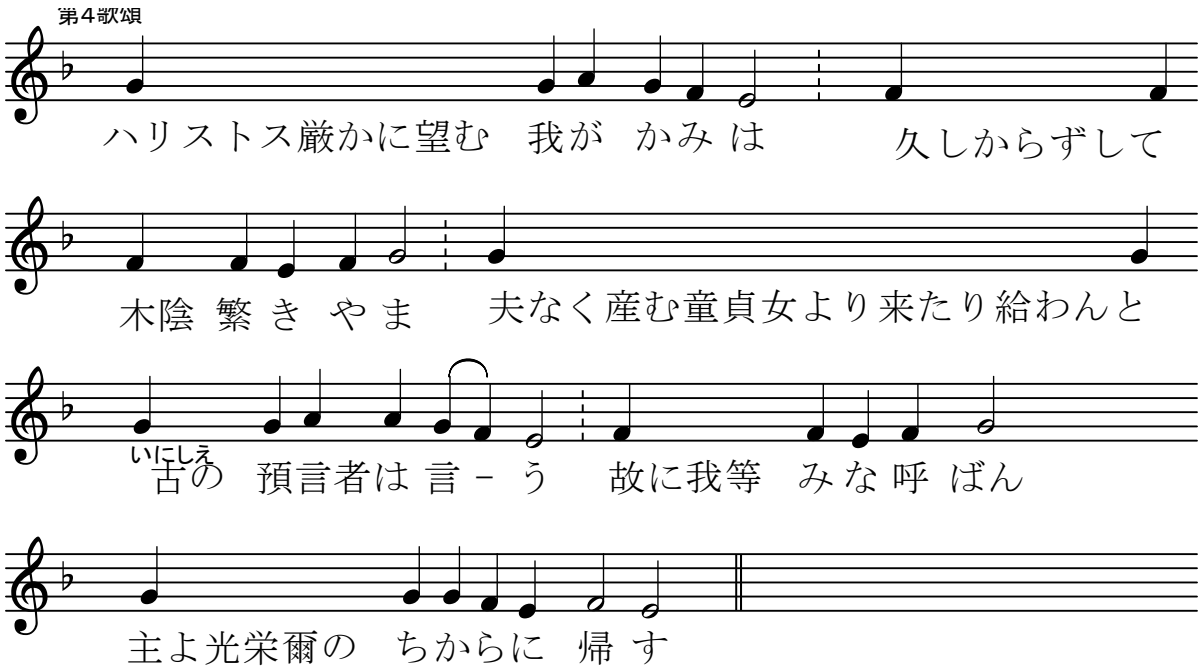
人人よ、神に合ひてシオンの中に歌へ、禱をイエルサリムの中にハリストスに獻げよ、彼は親ら權を以て光榮の中に來り給ふ。教會は彼の上に堅められて呼ぶ、「オサンナ」、爾來る者は崇め讃めらる。

【小連祷】

＜應答歌、省略＞

第四歌頌

イルモス、ハリストス嚴に臨む我が神は、久しからずして、樹蔭繋き山、夫なく産む童貞女より來り給はんと、古の預言者は言ふ。故に我等皆籲ばん、主よ、光榮は爾の力に歸す。



「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

山と悉くの陵とは膏澤を以て盛なる樂を滴らすべし、林の諸木は舞ふべし。諸民はハリストスを崇め讃めよ、衆人は喜びて彼に呼べ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

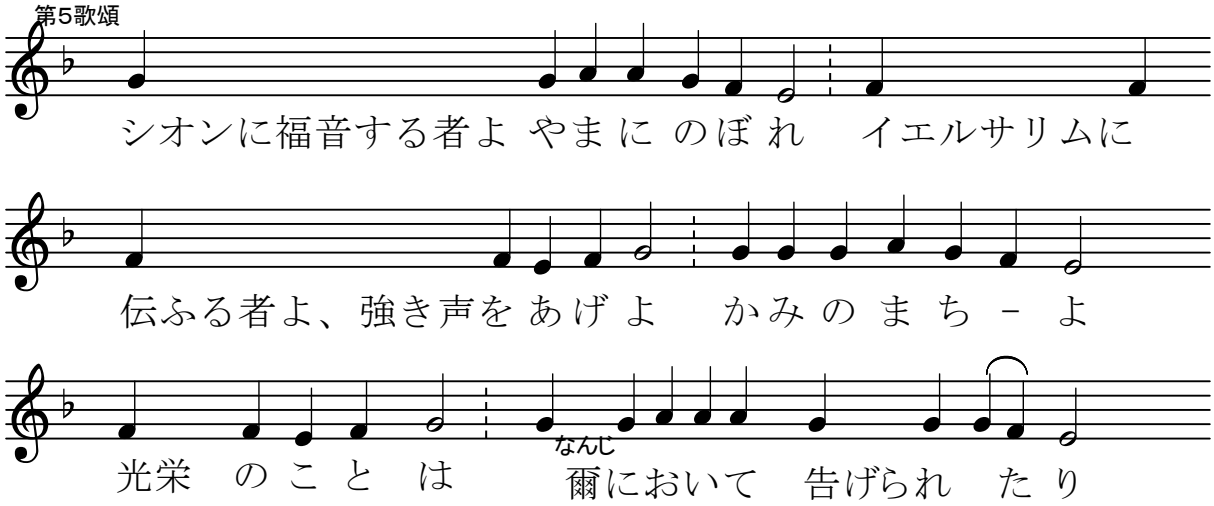
世世に王たる主は權力を佩びて來らん、シオンに於て其華麗と光榮との嚴なること比なし。故に我等皆呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

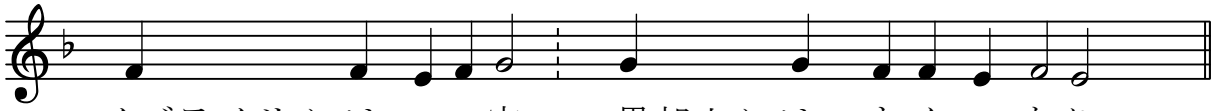
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

指尺を以て天を度り、手を以て地を度る主は來り給へり。蓋彼はシオンを選びて、其中に居り且王たるを嘉し、信を以て、主よ、光榮は爾の力に歸すと呼ぶ人人を愛しみ給へり。

第五歌頌

イルモス、シオンに福音する者よ、山に登れ、イェルサリムに傳ふる者よ、強き聲を揚げよ、神の城邑よ、光榮の事は爾に於て告げられたり、イズライリには平安、異邦人には救なり。





「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

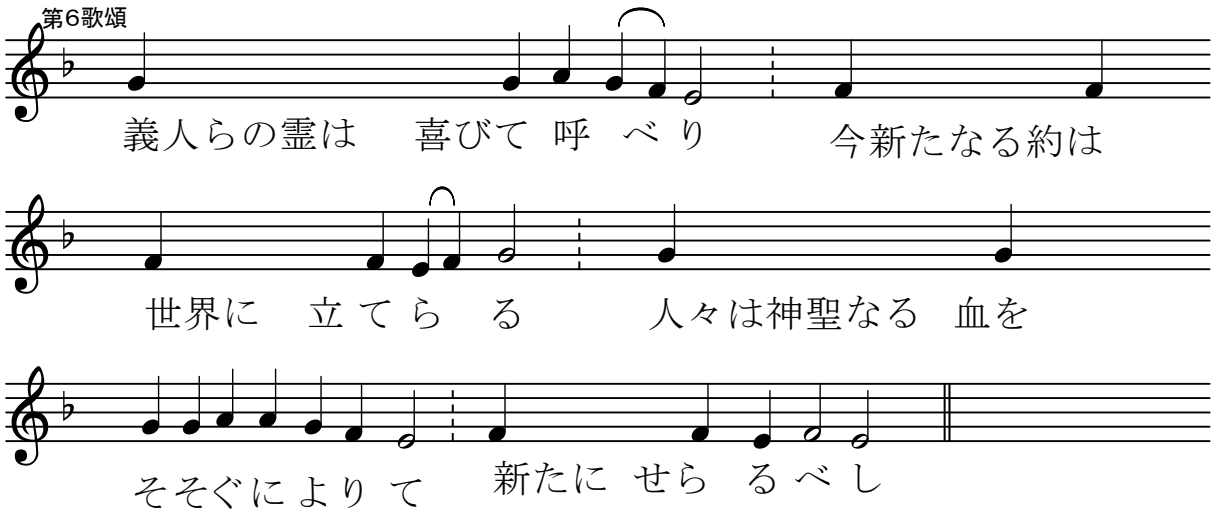
至高きにヘルワィムに坐して、卑きを瞰む神は、親ら權を以て光榮の中に來り給ふ、萬有は彼の神聖なる讃美に滿てられん、イズライリには平安、異邦人には救なり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

神のシオン、聖なる山及びイェルサリムよ、爾の目を擧げて四周に注ぎ、爾に集まりたる爾の諸子を見よ、蓋彼等は爾の王に伏拜せん爲に遠くより來れり、イズライリには平安、異邦人には救なり。

第六歌頌

イルモス、義人等の靈は喜びて籲べり、今新なる約は世界に立てらる、人人は神聖なる血を注ぐに藉りて新にせらるべし。



「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

イズライリよ、神の國を受けよ、幽暗の中に居る者は大なる光を見るべし、人人は神聖なる血を注ぐに藉りて新にせらるべし。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

シオンよ、爾の俘囚を釋きて赦し、無知の水なき坎より出せ、人人は神聖なる血を注ぐに藉りて新にせらるべし。

【小連祷】

小讃詞、自調、第六調。

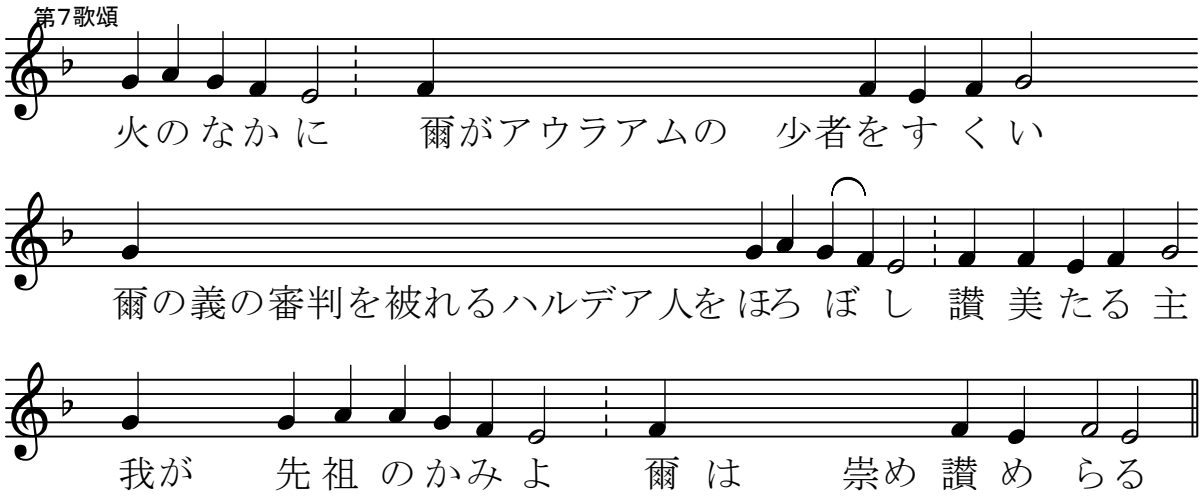
天には寶座に、地には　小驢　に乘せらるるハリストス神よ、爾は諸天使の讃美、諸子の歌頌を受け給へり。彼等爾に呼べり、アダムを喚び起さん爲に來る主よ、爾は崇め讃めらる。

同讃詞

不死なるハリストスよ、爾が地獄を縛り、死を殺し、世界を復活せしめしに因りて、今日嬰兒は枝を執り、爾を勝利者と讃美して、爾に呼べり、ダワィドの子に「オサンナ」。蓋言へり、是より已に嬰兒等はマリヤの嬰兒の爲に殺されざらん、卽 爾は獨 悉くの嬰兒及び老翁の爲に十字架に釘せられん、已に劍は我等に及ばざらん、蓋爾の脅は戈を以て刺されん。故に我等喜びて云ふ、アダムを喚び起さん爲に來る主よ、爾は崇め讃めらる。

第七歌頌

イルモス、火の中に爾がアウラアムの少者を救ひ、義の審判を被れるハルデヤ人を滅しし讃美たる主、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。



「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

人人は伏拜して、門徒と偕に喜びて、枝を執りて、ダワィドの子に「オサンナ」を呼べり、讃美たる主、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

イズライリ民及び諸天使の王よ、惡に與らざる大數、尚嬰兒たる性は神に適ひて爾を歌へり、讃美たる主、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

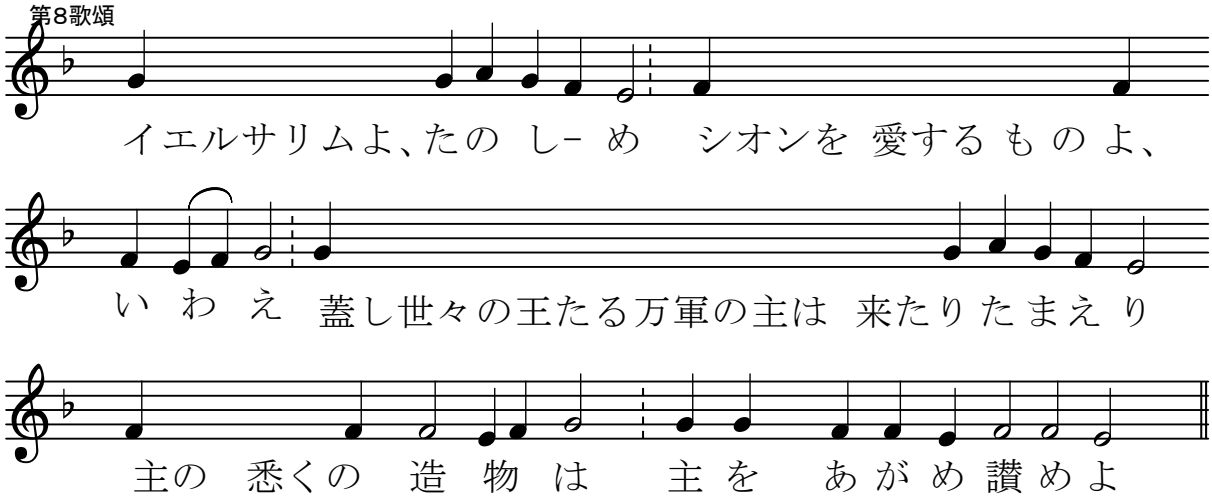
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

ハリストスよ、人人の大數は梢と枝とを以て爾を祝讃して呼べり、臨みたる世世の王は崇め讃めらる、讃美たる主、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第八歌頌

イルモス、イェルサリムよ、樂しめ、シオンを愛する者よ、祝へ、蓋世世の王たる萬軍の主は來給へり、全地は其顏の前に敬みて籲ぶべし、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ。

第8歌頌



「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

シオンよ、爾の王ハリストスは小驢に乗りて臨めり、蓋無知なる偶像の迷を破り、諸異邦民の遏め難き奔騰を制せん爲に來給へり、彼等が歌はん爲なり、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ

「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

シオンよ、大に喜べ、爾の神ハリストスは王と爲りて世世に迄らん。録されし如く、彼温柔にして救を施す義なる我が贖罪主は小驢に乗りて、諸敵の馬の如き奔騰を制せん爲に來給へり、蓋彼等は呼ばず、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

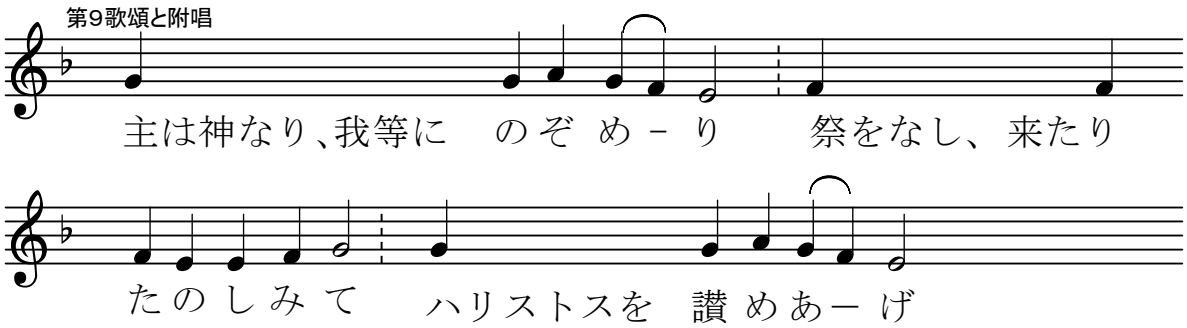
逆ふ者の法に悖る會は神聖なる牢より遂はる、蓋神の祈禱の家を盗賊の巣窟と爲して、贖罪主を心より遠ざけたり。我等彼に呼ぶ、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ。

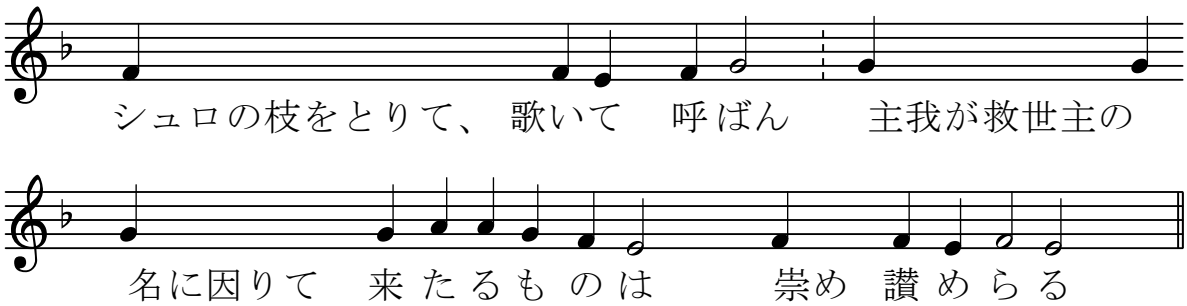
「ヘルワィムより尊く」を歌はず。

第九歌頌

イルモス、主は神なり、我等に臨めり、祭を爲し、來り樂しみて、ハリストスを讃め揚げ、棕櫚の枝を執りて、歌ひて籲ばん、主我が救世主の名に因りて來る者は崇め讃めらる。

第9歌頌と附唱





「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

諸民何爲れぞ騒ぎ、學士と司祭等とは何爲れぞ徒に謀りたる、爾等は諸子が梢と枝とを執りて、歌を以て、主我が救世主の名に因りて來る者は崇め讃めらると呼ぶ所の者は此れ誰ぞと云ふ。

「オサンナ」ハリストス、崇め讃めらるる神

此れ我等の神なり、彼と侔しき者なし、彼は凡の義なる途を啓きて、愛せし所のイズライリに與へ、其後現れて人人と偕に居り給へり。主我が救世主の名に因りて來る者は崇め讃めらる。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

不順なる人人よ、何ぞ誘惑の途を爾等の側に置きたる、爾等の足は主宰の血を流すに疾し、然れども彼必復活して、呼ぶ者を救はん、主我が救世主の名に因りて來る者は崇め讃めらる。

【小連祷】

輔祭　我等安和にして主に祷らん、　**（詠）主 憐れめよ**

輔祭　上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん、　**（詠）主 憐れめよ**

輔祭　至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、　**（詠）主 爾に**

司祭　（高声）蓋天の衆軍爾を讃揚す、我等も光栄は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

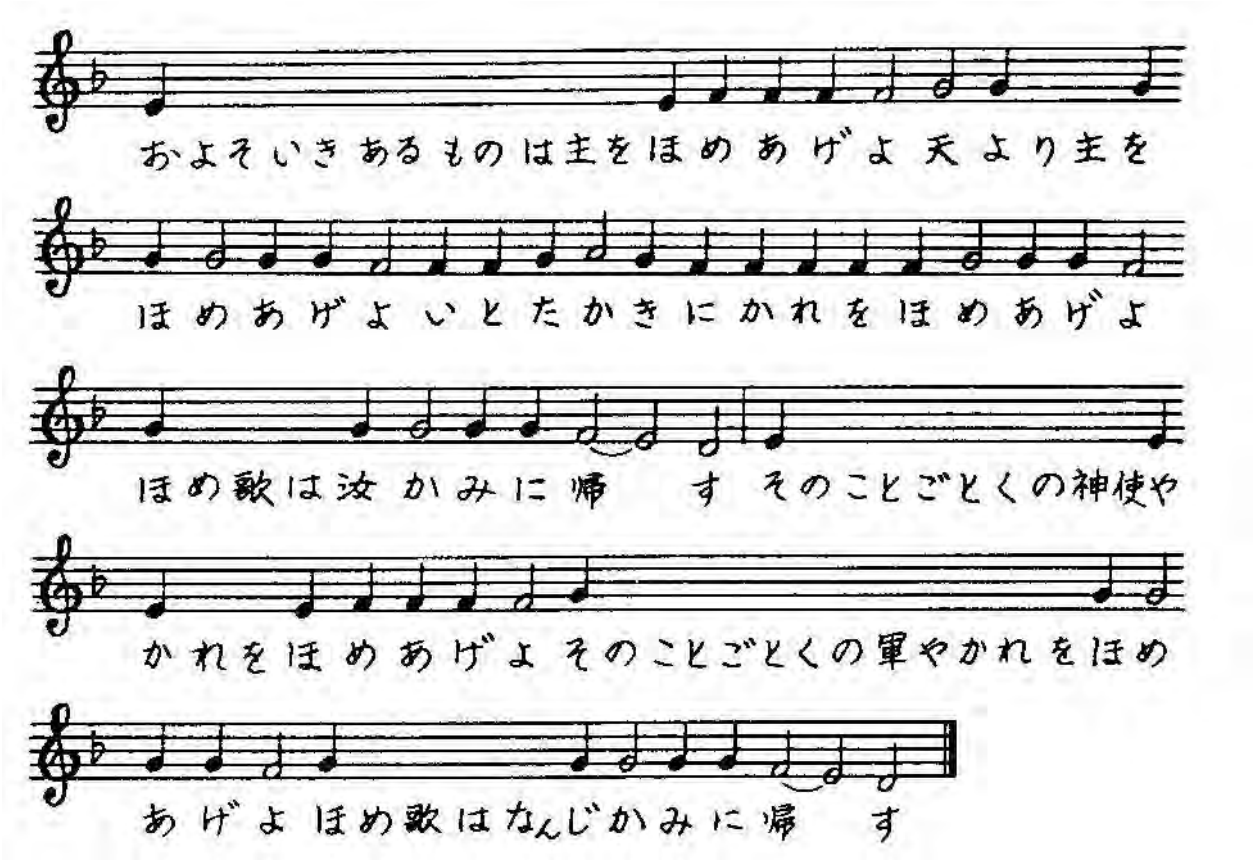
（詠）「アミン」

※光耀歌を歌はずして、直に主我等の神は聖なり、三次、第四調に依りて歌ふ。

「主我等の神は聖なり」3回

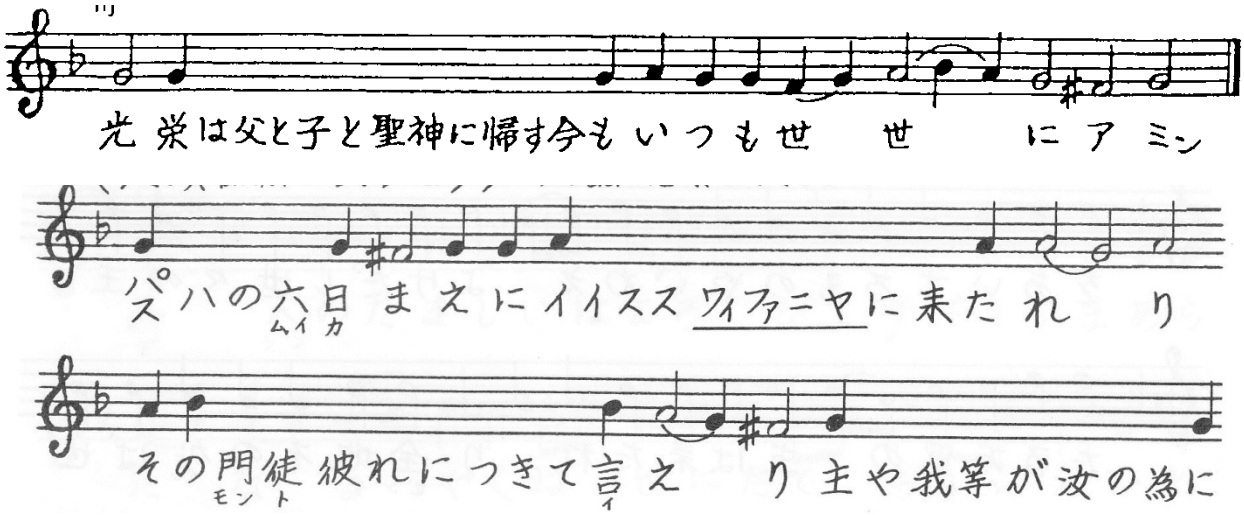
祭 11 【讃揚歌とスティヒラ】

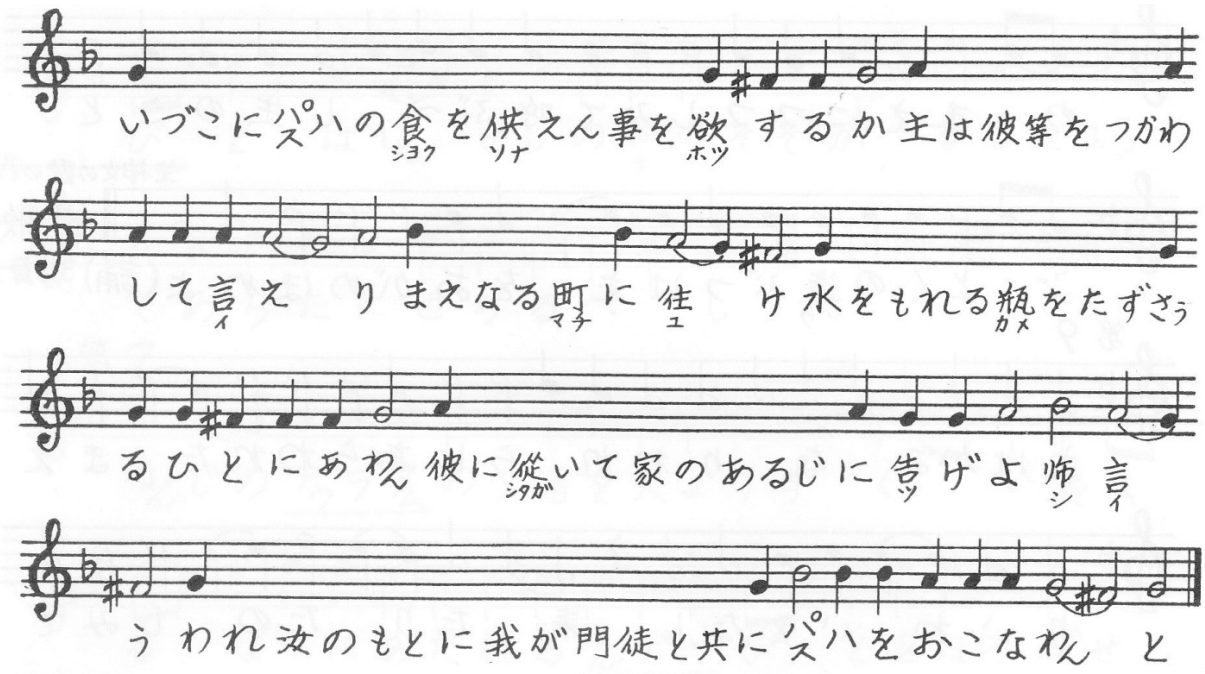
【凡そ呼吸ある者】に六句を立てて、自調の讃頌を歌ふ、第四調。



<聖詠スティヒラ略>

光榮、今も、第六調、逾越節の前六日イイススワィファニヤに來れり、其門徒彼に就きて曰へり、主よ、我等が何處に爾の爲に逾越節(パスハのえん) 筵 を備へんことを欲するか。彼は之を遣して曰へり、城に往け、水を盛れる瓶を攜ふる人に遇はん、之に随ひて家の主に語げよ、師言ふ、我門徒と偕に爾の家に逾越(パス)節(ハのえん) 筵 を行はん。

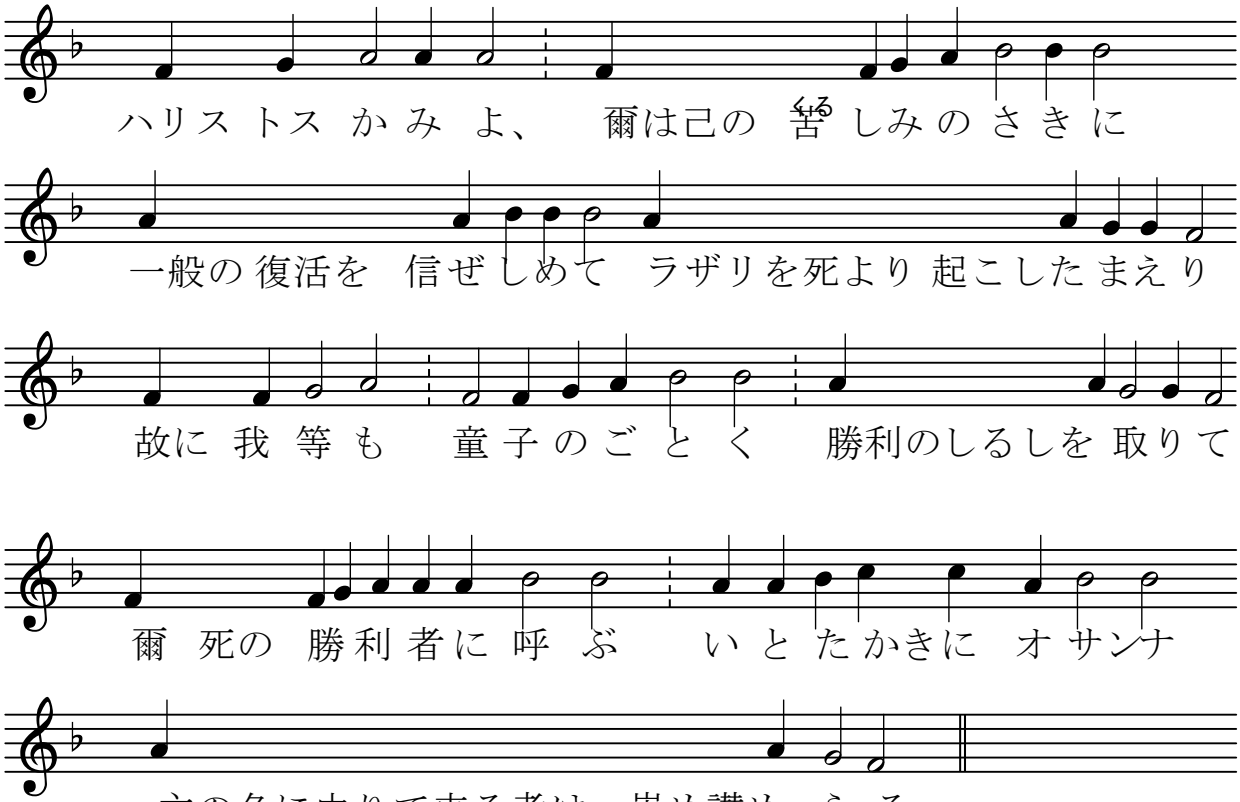




→通常部分 P22 に戻る　【大詠頌】を歌う

大頌栄、「聖なる神」を歌った後

祭12【祭日トロパリ】



→通常部分 P27 に戻る

【重連祷、増連祷】　早課の終わり。発放詞。

一時課

＜一時課の変更箇所は、トロパリコンダクのみ＞

【トロパリ】

ハリストス神よ、爾は己の苦の前に一般の復活を信ぜしめて、ラザリを死より起し給へり。故に我等も童子の如く勝利の徽號を執りて、爾死の勝利者に呼ぶ、至高きに「オサンナ」。主の名に因りて來る者は崇め讃めらる。

【コンダク】第六調。

天には寶座に、地には小驢（わかきうさぎうま）に乘せらるるハリストス神よ、爾は諸天使の讃美、諸子の歌頌を受け給へり。彼等爾に呼べり、アダムを喚び起さん爲に來る主よ、爾は崇め讃めらる。